

# 令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月22日(金)

会場： ジミー・カーターシビックセンター

## 1. 地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
防災意識の向上	甲奴町では、20年前から広島県をモデルに、消防署、消防団や警察署などの関係機関と連携した防災訓練を開始したが、住民の防災意識は向上しなかった。その後、町内一斉避難訓練を始めたものの、行政が主導的にするものであるという考えが強く、なかなか受け入れてもらえなかった。現在、自主避難に関する意識が変わりつつあると実感しているが、住民の中には、甲奴町が災害の少ない地域という認識もある。今後も、防災訓練を継続するしかない。	避難者は、行政がサービスをして当たり前であるという意識があるように思うので、その意識改革を行っていききたい。防災訓練をしている甲奴町でもそのような状況ということから、今後も、地道な取組が必要である。来年は、昭和47年災害から半世紀となる。今年、大規模な避難訓練を県や国交省、民間企業と連携して行い、さまざまな課題も見えてきた。今年8月の大雨も踏まえて、今後の防災・減災のあり方について、市民の皆さん、自主防災組織の皆さんとともに、一緒に進めていく。
ハザードマップ等の活用	防災訓練に関わる機関(自主防災組織、消防、甲奴支所など)が「マイ・タイムライン」を活用しているが、小学生から大人まで、どなたでもできる。これを作ったから、きちんと行動するとは限らず、作って終わりになっているのではないか。自分の現在の位置や自宅の状況などをハザードマップで知り、避難所までの行動をどのように考えておくかが大切であるが、年配の方は避難をためらう。その理由としては、避難所に行くことと迷惑がかかる、避難しなくても大丈夫、家から離れたくないなどがある。地域の方には、昭和47年災害の際、自衛隊がすぐに物資を届けてくれたという記憶が残っており、今も同様だと思っておられる。しかし、当時は甲奴郡であり、現在は合併して三次市として広域にもなっているので、同様に考えてはいけないと思っている。	「マイ・タイムライン」は、自分の家はどういう状況で、安全性はどうなのか、万が一災害が起こった場合に避難所までどの経路で行くのか、どのくらい時間がかかるのか、近所の方を含め、家族構成として、小さい子どもや高齢者の方々がおられるのかなどを意識的に把握するには、重要なツールである。昭和47年災害以上の降雨量が、ここ4年のうち3回ぐらい起きており、昔の気象環境とは違ってきていることを認識してもらいたい。
各種防災対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川の合流地点である西野大橋あたりを、浸漬してもらっていたこともあり、今年は助かった。一定の効果があったと考えている。また、地域の方の安心に繋がっている。</li> <li>・市(危機管理課)が、ハザードマップの更新をし、内水が溜まる箇所(商工会館、農協の周辺など)が新たに指定された。住民へ注意喚起ができることから、感謝している。</li> <li>・箇所付けしてもらった水位計も非常に便利である。</li> </ul>	-
避難所の運営	補助避難所は、地元の振興協議会が中心となり、地元の人員を集めて、設営・運営をしているが、8月の大雨は2晩以上長引き、運営者の確保が困難となった。若者は消防団として従事し、高齢者には無理に頼めない。そこで、振興協議会から、消防団を卒団した70歳過ぎまでの人をお願いしたところ、7、8名となった。しかし、会社勤めの人もいるので、避難所の開設が2晩以上の長期になると、やはり厳しい。なお、避難所の物資は充実しており、感謝している。	継続的な降雨により、避難所の設営に関して、地元へ負担がかかったことは、市として認識している。不足するマンパワーをどのように解決するのかなど、今後の避難所のあり方について、庁内でも協議を行っているが、引き続き、各自主防災組織などと相談させてもらいながら、方向性を示すことができたらと考えている。
避難計画の作成	要支援者などの避難計画は、市町村に作成義務があり、地元振興協議会や民生委員と進めてきたが、個人情報課題となった。具体的な行動計画や実効性まで盛り込まれるのかなどを教えてほしい。甲奴町では、レベル3の場合は高齢者を避難させることが基本としており、地区ごとに、避難支援の有無や連絡先などの情報を集めた名簿がある。実効性を高めることは難しく、避難者の人数把握や安否確認を行う防災連絡員を、地域ごとに張り付けたりもした。	市では、要支援者にかかる避難計画の策定を進めているが、地域の実情に応じた実効性が重要と考えている。上川地区では、自治会、民生委員、社協などが連携し、避難について心配な方の情報を持ち寄って、リスト化されている。どのような要支援者がどこにおられ、どのような状況かを把握でき、緊急時に連絡できればいいと思う。その避難計画については、福祉サービス、民生委員の方々が要支援者と話をして、自治会で共有をすることが有効である。今後、市からマニュアルのひな形を示すが、実効性が重要であることから、自治会が中心となり、地域で具体的な内容について話し合っていたいただきたい。要支援者については、早めの判断をしていただき、家族が第一に、その次として、消防団がサポートすることになると思う。

# 令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月22日(金)

会場： ジミー・カーターシビックセンター

項目	参加者の発言	市の発言
野外スピーカー	平成26年以降、各地で、野外スピーカーの設置が進んでいる。平成30年豪雨の後に行われたアンケートでは、災害の情報を知ったのは、一番がアラート、二番が市ホームページ、次に野外スピーカーという結果があった。現在は、野外スピーカーは安くなっており、操作が簡単であるので、野外スピーカーの設置を進めてほしい。	災害が起こった時には、その情報をいかに早く伝えるかが重要である。野外スピーカーの設置は、議会等でも色々と議論があったが、市の方向性としては、野外スピーカーよりも、音声告知放送や携帯への防災メール、LINE、コスモキャストというアプリなど、複数の情報発信手段を用いて、皆さんにどれか一つでも状況をすぐに届けることができるように、情報発信体制を構築している。新たな情報発信手段も検討している。防災無線については、大雨などで音が聞こえないような状況もある。それぞれのメリットとデメリットを踏まえて、地域の皆さんへの迅速かつ確実な情報伝達方法を、引き続き研究していく。

## 2. 持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
高齢者の見守り	上川地区の森づくり事業について感謝している。しかし、この地区では、上水道、市営住宅や小学校がない。最近、孤独死が数件起きている。一人暮らしの方が多いことから、安否がわかるようになればと思う。	行政としては、高齢者の見守りについては、民生委員や地域の皆さんと一緒に取り組むことが基本であると認識している。安否確認は課題であるが、民生委員の皆さんの負担やプレッシャーとならないようにしなければならない。今後も、高齢者の見守りについては、地域の皆さんと相談させていただきながら、模索していきたい。
道路改修について要望	福田太郎丸線の道路拡張工事について、陳情を出している。道田牧場の奥の部分について、拡張をお願いする。	道田牧場までは整備しているが、その先については進んでおらず、要望書も確認しており、建設部も把握している。なお、市内にある約3,500本の市道の維持管理については、各地域から多くの要望がある。しかし、限られた財源の中で、どうしても緊急性や、救急車が入らない箇所など、優先順位をつけながら整備している。時間的に遅くなる箇所もあるが、引き続き、できるところからやっていく。
	県道宇賀矢野線の府中市境付近で、離合ができない箇所がある。	現場の確認をする。
宇賀コミュニティセンターの補修	宇賀地区のコミュニティセンターは、地元でよく使用されている。しかし、玄関のドアが重く、改善要望を出している。	確認をする。
地域おこし協力隊	地域おこし協力隊の募集状況はどうか。	現在募集をしている。具体的な状況については、担当部署から回答する。
品の滝	品の滝の管理が行き届かず、遊歩道の整備も追いつかない。明るい場所となるように、ぜひ整備について検討してほしい。	品の滝は素晴らしい場所であり、活用していきたい。
放課後子ども教室	放課後児童クラブは、評判が良い。子どもたちも、子どもたちの面倒を見ている方も嬉しそうである。	-
消防団屯所の改善	春日井地区にある、2階建ての消防団屯所は、外部の階段がボロボロであり、非常に危ない。補修をお願いする。	確認をする。
農地活用	西野地区では、農業をしたことがない方に耕作放棄地を開放して、ニンニク、さつまいもや玉ねぎなどを栽培している。	遊休地の活用については、心強いと感じる。また、甲奴町ではブルーベリー栽培にも挑戦されている。今年の収穫作業にも参加させてもらったが、来年、もっと収穫量が増えることから、収穫などについては、観光客などの活用を検討されていると聞いている。

# 令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月22日(金)

会 場： ジミー・カーターシビックセンター

項目	参加者の発言	市の発言
移動図書館	旧甲奴町で始まった移動図書館(ころぶつくる号)は、合併後も、布野、神杉や甲奴など、市全域で運用している。しかし、車両が20年以上経過し、劣化していること、運べる本の量が少ないことから、軽自動車から普通自動車に更新してほしいという声がある。子どもたちが本に興味を持つ場であり、引き続き、移動図書館をやってほしい。なお、元気サロンに合わせて到着するようになっており、交流の一助にもなっている。	現状を確認する。
甲奴町の良さ	子どもの不登校について、スクールカウンセラーから、家や学校のほかに自分が安心していられる居場所がないことも要因であると聞いた。この点、甲奴町には、カーターセンターやゆげんき、コミュニティセンターなどがあるとともに、普段から地域の方々が声をかけてくれ、悩みを気軽に言える。その雰囲気人が引き付けていると思う。	甲奴町には、移住者が溶け込める雰囲気がある。防災や地域づくりなどにおいて良い面については、ほかの地域づくりにも参考にさせてもらう。